
仮面ライダーエターナル。 復讐を誓った者

ケン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーエターナル。

復讐を誓った者

【Nコード】

N4660BA

【作者名】

ケン

【あらすじ】

皆さんは覚えているだろうか。エターナルというメモリを、そして仮面ライダーを。

Wの活躍によりエターナルメモリ及び

その他のT2ガイアメモリは爆発四散した……

かのように見えた。

エターナルメモリは爆発により偶発的に

開いた異次元の穴へと吸い込まれ

一人の少年の手に渡る。

その少年は姉を殺され、復讐を誓う少年。
その名は……

プロローグ 悲しみのS／復讐の始まり

20××年5月27日。

「はっはっはっは」

一人の少年が呼吸を荒くして夜道を走っていた。

少年の名前は三柴満、17歳。

容姿は男子にしては長めの髪に茶髪だった。

そして手には袋が持たれていた。

実は先程まで少年は塾で授業を受けており先程終わったばかりでさらに

今日は自分とその姉である桜の誕生日でもあった。

決して双子ではないが偶然誕生日が重なってしまっただけだという。

しかし、二人に両親と言う存在はおらず二人で生活していた。

既に姉は社会人になっており新米教師だった。

満は家につくとポケットから鍵を取りだしドアを開けた。

「ただいま！！！！お姉ちゃん！！！！！！！！！！」

しかし、いつもならお帰りーという声が聞こえてくるのだが今日に限っては聞こえてこなかった。しかし、リビングの電気は点いているので帰ってきているのは間違いなかった。

「もしかして、お姉ちゃん寝たのか？最近疲れてるみたいだし」

満はリビングのドアを開けるとそこには地獄ともいえる

光景が広がっていた。

「ね、ね、姉さん！！！！！！」

そこには姉の桜が裸の状態で仰向きに倒れており

慌てて起こすと顔には白い液体がこびりついていた。

「姉さん！！！！姉さん！！！！」

「み……っ……る？」

「そつだよ！！僕だよ！！どうしたの！？」

「聞いて…満。あ…たし…はも…う無理…なの」

「そ、そんな事言わないでよ！！！！今からでも救急車を呼べば助かるよ！！！！！」

「自分…の体は…自分が…よく…知ってる。げほ！！ごえ！！」

桜は今まで我慢していたのか嘔吐しだし、その嘔吐したものの中には顔にあったものと同じものが混じっていた。

「姉さん！！！！！」

「も…しも…犯人を…見つけ…たとしても…

絶対に…殺そうとしないで…復讐は…復讐しか呼ばない」

「分かったから！！分かったからもう話さないで！！！！！」

「そ…う、い…い…子…ね、み…つ…る」

桜は満が良い事をしたらいつとも頭を撫でていた。

いつもなら幸せに思うが今は悲しみしか出てこない。

これが最後になるかもしれないという感覚がしてたまらないのだ。

「姉さん！！！！僕から離れないでよ！！！！！」

「み…つ…る、だ…い…す…き…だよ」

桜は満の唇に徐々に自分の唇を近づけていき

あと少しで合わさるところで力無く満に

もたれかかってきた。

「姉さん？なあ、姉さん！！！！返事をしてよ、姉さん！！！！！」

すると庭の方から何かが草の中で動くような音が聞こえた。

満は台所から包丁を持ちだし庭に出て懐中電灯で

照らしながら誰がいるのか探していった。

「だ、誰がいるのか！？いるなら出て来い！！！！！」

「あゝあ。ばれちゃった、意外と耳良いんだね」

君が泣き叫んでいる時に動いたのに」

茂みから出てきたのは若い男性と言つか青年の方が

しつくり来るような人物だった。手には1冊の本を持っており、服装はこの季節に長そで長ズボンに首にはマフラーを巻いていた。いくら、夜と言っても冷えるものは冷える。しかし、夏は熱苦しいのにも拘らず防寒具をつけていた。

「だ、誰だよ！お、お前！！！」

「ん？お前も気づいてるんだろ？俺があいつを
さんざんレイプしたって事にさ。良い所で

お前帰ってくるからさ！イライラしてんだよね！

いつもなら殺すけど、この世界にも飽きちゃったし

元の世界に戻ろうかな、風の吹く町にさ」

男性は適当にページを開いてなぞるとそのページがひとりでに浮きあがり

男性の後ろに浮かぶとビリビリに破けて空間に穴が開いた。

「く、く、空間にあ、穴が！！！！！」

「そつか！この世界ではこういうのはないんだっただけ！

ま、良いや。バイバイ」

男性はその空間の穴に飛び込むと穴が消えて

元の景色に戻った。満はその光景を啞然として見ていた。

「ああ！！ああああああああああああ！！！！！！！」

満は膝をつくと頭を抱え涙を流しながら泣き叫んだ。

自分が知る唯一の肉親を殺されたという悲しみ、目の前にその犯人がいたにもかかわらず何も出来なかったという悔しさ、そして

犯人に対する怒り、憎しみ。それらがごちゃまぜになって溢れ出して来た。

「おい、お前！！！！！」

「え？」

誰かに呼ばれたので辺りを見回すが誰もいなかった。

「ここだ、バカ！！！！！！！」

上から満の頭の上に何かが落ちてきたのでそれを拾ってみると

それはUSBに非常に似たもので大きくEと書かれていた。

『お前良い憎悪を持つてるな』

「ひーしゃ、喋った！ー！！」

満は驚きのあまりUSBを投げ捨てた。

『痛！ー！投げるな、バカ！ー！』

「あ、ご、ごめんなさい」

『たつく、お前何があつた』

「……お姉ちゃんを殺された。たった一人の家族だったのに」

「こいつは使えるな」

『そうか…お前名は』

「剣崎剣、貴方は？」

『俺は大道克己っていう名前があつたが今は

意味を成さない。お前、俺の弟になれ』

「え？」

『お前、アネキを殺した奴が憎いんだろ？』

「…憎い！ー！憎いけど、僕には何も出来ない！ー！！」

『いいや、俺を使えば力が手に入る。お前が持っている物は

ガイアメモリつつもんだ。これと後、ドライバーがあれば

力が手に入るし奴を追いかける。どうする』

「……なる、僕を…いや、俺を弟にしてくれ！ー！！」

そして、俺が大道克己になる！ー！！！！！！」

『よし、分かつた。克己、メモリの下らへんを

押してみる。メモリが起動する』

「ああ、分かつたよアネキ。でも、ちょっと待ってて。

姉さんを綺麗にしてくる」

それから桜をお風呂にいれ綺麗に洗い、お気に入りだった

服を桜に着せ警察に人が死んでいると電話をして、桜が

いつもつけていたネックレスを取り自分につけ

満改め克己はエターナルメモリを起動させるとメモリが

勝手に浮かび上がり目の前に穴が開いた。

『行くぞ克己』

「ああ」

「行ってきます、そしてさようなら姉さん。俺も大好きでした」
克己は心の中で最後の挨拶をして穴に入った。

ブログ 悲しみのS／復讐の始まり（後書き）

うつす！！遅れて申し訳ないっす！！！！

ようやく投稿ができました！！！！！！

感想もお待ちしております！！！！それでは！！！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4660ba/>

仮面ライダーエターナル。 復讐を誓った者

2012年1月12日19時48分発行